

## 書名 : 要点整理から攻略する『AWS認定 セキュリティ-専門知識』

2021年9月8日に、Amazon Elasticsearch ServiceからAmazon OpenSearch Serviceにサービス名称が変更となりました。  
また、Kibanaもその対象となり、KibanaからOpenSearch Dashboardsに名称が変更となります。

発行年月: 2020年7月26日 初版1刷

対象版刷: 初版1刷～初版3刷

ISBN: 978-4-8399-7094-9

最終更新日: 2021年9月13日

ページ	該当箇所	旧	新
7	下から3行目	Amazon Elasticsearch Service	Amazon OpenSearch Service
139	11行目の後	追記	※2021年6月に、KMSマルチリージョンキーという機能が発表されました。この機能を使用することにより、キーマテリアル、キーIDが作成リージョンとは異なるリージョンにコピーできます。利用者は作成リージョンと同じキーIDで暗号化/復号化処理が可能になり、リージョンごとに別のキーIDを指定する必要がなくなります。試験ではマルチリージョンキーが使用できない前提で問題が出題される可能性もあるため、注意しましょう。
169	下から2行目	コピー元のリージョンとは異なるCMKを別途作成して指定する必要があります。リージョンをまたいだCMKの使用はできないので注意が必要です。	リージョンをまたいだ CMK の使用ができなかったため、図のようにコピー元のリージョンとは異なる CMK を別途作成して指定する必要があります。 2021年6月のアップデートによりマルチリージョンキーと呼ばれる別リージョンへのキーのレブリケート機能が追加されたため、このような手間はなくなりましたが、試験では利用できない前提で出題される可能性もあるため手法の一つとして覚えておきましょう。
207	下から7行目	Elasticsearch	OpenSearch
208	図5-27,28	Elasticsearch	OpenSearch
209	柱	Amazon Elasticsearch Service	Amazon OpenSearch Service
209	5-11 節タイトル	Amazon Elasticsearch Service	Amazon OpenSearch Service
209	確認問題1～3	Amazon Elasticsearch Service	Amazon OpenSearch Service
209	ここは必ずマスター、1つ目	Elasticsearch	OpenSearch
209	ここは必ずマスター、2つ目	Amazon ES	OpenSearch
209	1行目、2カ所	Elasticsearch	OpenSearch
209	1行目、2カ所	(以下、Amazon ES)	トル(現時点で略称が不明のため)
209	4行目	Amazon ES におけるElasticsearch における	Amazon OpenSearch Service上のOpenSearchにおける
209	4～7行目、3カ所	Amazon ES ドメイン	ドメイン
210	2行目	Elasticsearch	OpenSearch
210	5行目	Amazon ES	OpenSearch
210	5-11-2 項目タイトル	Elasticsearch	OpenSearch
210	8行目	Elasticsearch	OpenSearch
210	10行目<追記>	～利用されています。	～利用されています。なお、Elasticsearchというソフトウェアがベースになっており、Elasticsearchのライセンス変更に伴ってAWSが独自開発をすすめるようになりました。もともとは本サービスでもElasticsearchが利用されており、サービス名称は2021/09/08まではAmazon Elasticsearch Serviceでした。
210	5-11-3 項目タイトル	Kibana	OpenSearch Dashboards
210	14行目	Kibana	OpenSearch Dashboards
210	14行目	Elasticsearch	OpenSearch

210	15行目	Elasticsearch上の	前身のElasticsearchではKibanaという名称でした。OpenSearch上の
210	17～24行目	Amazon ES ではすべてのAmazon ES ドメインにてKibana のインストールが提供されており、Amazon ES に取り込んだデータをKibana で可視化するという環境が完全マネージドで利用可能となります。Kibana へのアクセス制御にはAmazon Cognito 認証を利用することができます。 なお、すでに利用しているKibana が存在する場合はそのKibana からAmazon ES ドメインに接続することもできます。 セキュリティの観点では、システムのログをKinesis Data Firehose などからAmazon ES に集約し、Kibanaを利用して問題のあるログを検索するという環境の構築に利用する...	すべてのドメインにてKibana のインストールが提供されており、取り込んだデータをOpenSearch Dashboards で可視化するという環境が完全マネージドで利用可能となります。OpenSearch Dashboards へのアクセス制御にはAmazon Cognito 認証を利用することができます。 なお、すでに利用しているOpenSearch Dashboards が存在する場合はそこからドメインに接続することもできます。 セキュリティの観点では、システムのログをKinesis Data Firehose などからAmazon OpenSearch Serviceに集約し、OpenSearch Dashboards を利用して問題のあるログを検索するという環境の構築に利用する...
211	2,4,8,9行目、4カ所	Amazon ES	Amazon OpenSearch Service
211	図5-29 タイトル	Amazon ES	Amazon OpenSearch Service
211	図5-29 図中、4カ所	Elasticsearch	OpenSearch
211	図5-29 図中	Kibana	OpenSearch Dashboards
213	3行目	Elasticsearch	OpenSearch
210	図5-31 図中	Elasticsearch	OpenSearch
282	問題16 選択肢C	Elasticsearch	Amazon OpenSearch Service
302	問題16 5行目	Elasticsearch	OpenSearch
302	問題16 9,11行目	Elasticsearch	Amazon OpenSearch Service
302	最終行	Amazon Elasticsearch Service	Amazon OpenSearch Service